

第3次 那霸市生涯学習推進計画 (素案)

はじめに（市長、教育長あいさつ）	●
第1章 計画の策定にあたって	●
1.1.計画策定の意義	
1.2.計画策定の目的と位置づけ	
1.3.第2次那覇市生涯学習推進計画の評価	
第2章 生涯学習の現状と課題	●
2.1.生涯学習について国、県の動向	
2.2.那覇市における生涯学習の動向と課題	
第3章 生涯学習の推進にあたっての基本理念	● ●
3.1.基本理念と基本方針	
第4章 施策体系	● ●
4.1.第3次那覇市生涯学習推進計画の体系	
第5章 計画推進のしくみ	● ●
5.1.施策・事業の評価と活用	
5.2.計画の推進に向けて	
第6章 計画に関する諸情報	● ●
 ■ 資料	
No. 1 施策体系一覧	● ●
No. 2 第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領	● ●
No. 3 第3次那覇市生涯学習推進計画の策定経過	● ●
No. 4 那覇市生涯学習推進本部規程	● ●
No. 5 第3次那覇市生涯学習推進計画（素案）について（諮問）	● ●
No. 6 第3次那覇市生涯学習推進計画（素案）について（答申）	● ●
No. 7 生涯学習推進協議会の意見等	● ●
No. 8 市民アンケート・パブリックコメント等	● ●
No. 9 那覇市生涯学習推進協議会規則	● ●
No.10 那覇市生涯学習推進協議会委員名簿	● ●

第1章 計画の策定にあたって

1.1.計画策定の意義

社会情勢の変化への対応

第2次生涯学習推進計画期間（H30～R6年度）において、少子高齢化・人口減少の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会変容により、交流の希薄化や困難な立場にある人々などに関する社会課題が顕在化されました。そのような中、学校教育においては、「GIGAスクール構想」によるハード・ソフト・人材の整備が加速し、国においては、デジタル庁、こども家庭庁が新たに発足しました。第11期及び第12期中央教育審議会（以下、「中教審」という。）では、2040年以降の社会を見据え、Society.5.0に対応するためのリカレント教育、共生社会の実現に向けた社会的包摂の推進、すべての人のウェルビーイングの実現について審議されました。

生涯学習に求められる役割の変化

人生100年時代、SDGs、DXの急速な社会の進展など、将来の予測が困難な時代において、生涯学習が担う役割も、従来の枠に囚われず、時代に即した視点を取り入れることが求められています。第11期中教審において、生涯学習は基本的な役割に加え、以下の役割が重要視されています。

- 1) 生涯学習が担う基本的な役割
- 2) ウェルビーイングの実現
- 3) 地域コミュニティの基盤としての役割
- 4) 社会的包摂の実現を図る役割

<関連する主な計画等>

関連計画等	概要
第4期教育振興基本計画 (2023年 文部科学省)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年に全面改正された教育基本法に基づき、政府が策定する教育に関する総合計画 ・めまぐるしく変化する社会で、一人一人が社会の担い手となること、社会全体のウェルビーイングの向上を目指す、教育の羅針盤となる計画
第3期沖縄県教育振興基本計画 (2022年 沖縄県)	<ul style="list-style-type: none"> ・希望と活力にあふれる豊かな県づくりのため、その基盤となる人材育成を図るための計画 ・沖縄県の教育振興のための施策に関する基本的な計画として、教育行政運営の基本として策定
第四次沖縄県生涯学習推進計画 (2023年 沖縄県)	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」に掲げる将来像の実現に向け、総合行政として県の全部局が一体となって生涯学習を推進するための基本方針 ・県、市町村、関係団体等の役割を明らかにし、行政、学校、家庭 地域住民、様々な関係団体が連携・協力して全県的に生涯学習の推進を図る指針
第3次那覇市教育振興基本計画 (2021年 那覇市)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の「教育の基本理念」のもと、「教育の目標」の実現に向けて、本市の教育に関する施策を体系的に示す

生涯学習とは、職業や生活に必要な知識を身につけ自己実現を図るためのものです。自己学習のほか、学校教育や家庭教育を含む、社会教育における他者との学び合い、教え合いにより豊かな学びにつながるものとされています。

<生涯学習のイメージ図>

生涯学習

教育による学習

「社会教育による学習」

- 公民館、図書館、美術館、博物館等の社会教育施設で行う学習
- 生涯学習関係機関、団体、事業者、企業等が行う学習
- 市民等が行う組織的な教育活動など

「学校教育による学習」

幼稚園、小学校、中学校、
高等学校、大学等における教育

「家庭教育による学習」

- 基本的な生活習慣の習得
- 家庭内におけるしつけなど

「自己学習」

書籍、インターネット、テレビ、
ラジオ等を活用した個人学習など

1.2.計画策定の目的と位置づけ

計画策定の目的

生涯学習の重要性を共有し、第5次那覇市総合計画のめざすまちの姿（「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」）及び第3次那覇市教育振興計画で掲げる政策（「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」）の実現に向けた本市の基本的な考えと方向性を示すことで、庁内外と連携し、関係する施策を体系的・計画的に推進することを目的とします。

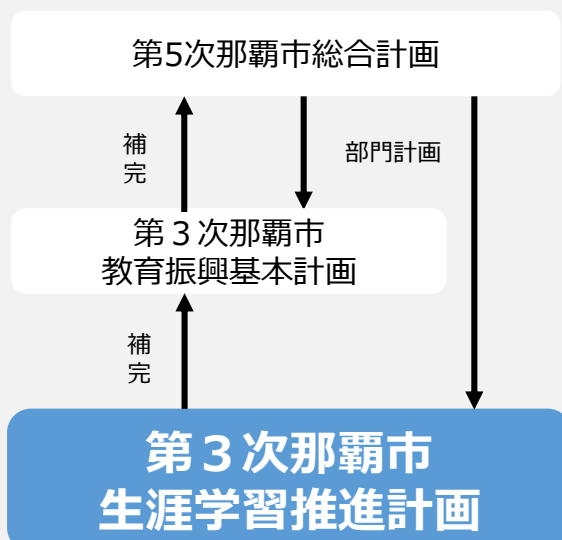
- **市民・事業者視点**
生涯学習に関する市の考えや方向性を共有し、協働による取り組みを促進します
- **職員視点**
庁内での方向性を共有し、部署間の連携等により効果的な施策の展開を図ります

計画の位置づけ

「第3次生涯学習推進計画」は、第5次那覇市総合計画、第3次那覇市教育振興基本計画との整合性を図りながら、両計画を補完する計画として位置づけ、生涯学習の施策を推進します。

計画の期間は、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。

<本市の関連計画との相関図>



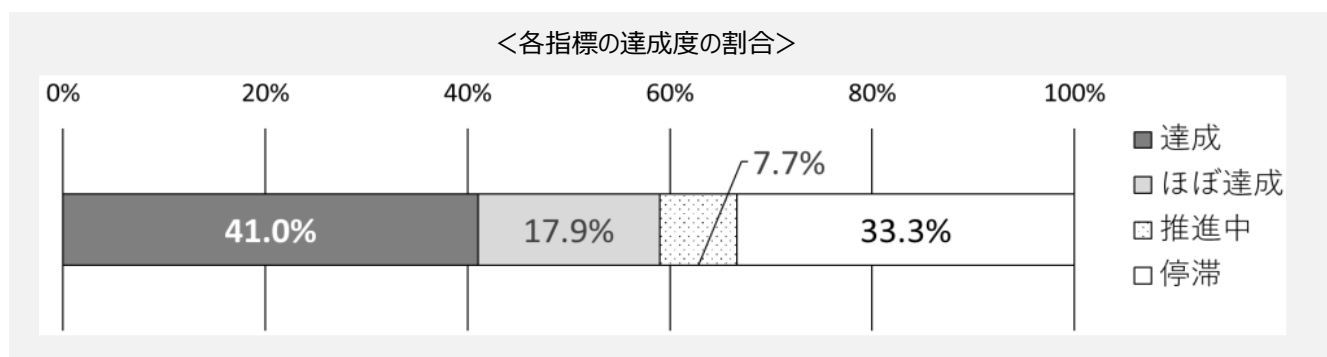
1.3.第2次那覇市生涯学習推進計画の評価

P●● 「第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧」を参照

評価の総括

第2次那覇市生涯学習推進計画の評価は、全39指標中、「達成」「ほぼ達成」を合わせると23指標（約59.0%）であり、「推進中」も合わせると26指標（約66.7%）となっています。

柱ごとの評価をみると、『1 協働による生涯学習のまちづくり』は「ほぼ達成」、『2「学びと実践」によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～』は「推進中」、『3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり』は「ほぼ達成」となっています。3つの柱のうち、2つの柱の評価が「ほぼ達成」であり、各指標の評価結果も鑑み、本計画は“概ね良好に推移している”と総括します。



評価からの考察

各指標をみると、柱1-方針(1)-方策②地域生活の課題に関する学習プログラムの充実において、9指標のうち6指標が「達成」している。また、柱3-方針(1)-方策②歴史・文化資源等を生かした事業の充実において、5指標のうち3指標が「達成」している。事業やプログラムの充実については、関連各課にて概ね充実したプログラムを提供している様子が伺えます。

柱2-方針(2)をみると、方策①家庭教育力の充実では4指標中3指標、方策②地域教育力の充実では3指標中2指標において、いずれも実績値が現状値を下回っており、方針の評価は「推進中」となっています。コロナ禍の影響で、回復が困難である指標もみられ、with コロナ・after コロナへの対応についてどのように取り組むか、今後の課題のひとつと考えられます。また、同方針の「停滞」している指標においては、担当課より、課題として「事業の継続的な周知」「事業に参加しやすい環境づくり」「事業実施のための人材確保」などが挙げられています。家庭教育力および地域教育力の充実においては、多様化する家庭・地域の状況について理解を深めるとともに、ニーズに沿った周知や事業内容、環境づくりが求められ、そのための工夫や関係者等との連携が必要です。

人口減少時代において、また、コロナ禍の影響による社会状況の大きな変化に伴い、生涯学習、コミュニティ、多様な主体の「協働」や「まちづくり」のあり方等も変化しています。

第3次生涯学習推進計画の策定においては、時代に適応した新たな視点を反映し、内容等について検討する必要があります。

第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧

柱	方針	方策	指 標			現状値	実績値			めざそう値		達成度
			指 標 名	主管課	指標 単位	H28 年度	R 2 年度	R 5 年度	R 2 年度	R6 年度		
1 協働による生涯学習のまちづくり	(1) 学習情報の提供・相談や学習プログラムの充実	①学習情報の提供・相談	1) 那覇市生涯学習情報提供システムのアクセス数	生涯学習課	件	2,111	1,489	3,635	2,500	3,000	達成	
			2) 図書館来館者数（年間）	中央図書館	人	469,305	250,228	351,741	475,300	481,300	停滞	
			3) レファレンス（調査相談）数	中央図書館	件	907	648	655	1,400	1,780	停滞	
		②地域生活の課題に関する学習プログラムの充実	4) 地域生活の課題に関する講座・学級（市民講座・成人講座・高齢者学級・少年教室・青年講座・親子ふれあい学級・家庭教育学級）の提供数	中央公民館	回	85	40	84	85	85	停滞	
			5) 男女共同参画に関する講座の延べ受講者数（累積）	平和交流・男女参画課	人	24,961	26,883	27,711	27,360	28,077	ほぼ達成	
			6) 那覇市の都市計画に関する講座等の開催数	都市計画課	回	2	2	5	3	5	達成	
			7) 地球温暖化対策の学習（講座）の満足度	環境政策課	%	85	94	100	88	95	達成	
			8) 指定管理運営において那覇市緑化センターでの緑化に関する講座・展示会等の開催数	公園管理課	回	20	24	28	23	27	達成	
			9) 自然観察会等へ参加する市民の満足度	環境保全課	%	70	全中止	100	73	80	達成	
			10) 小学生向け心のバリアフリーセミナー受講校数	福祉政策課	校	5	－	6	5	5	達成	
			11)認知症サポーターの養成の累積数	ちゃーがんじゅう課	人	16,879	24,368	27,093	24,000	29,000	ほぼ達成	
			12)小中学生が参加できる講座等の参加者率について	中央公民館	%	12	11.0	14.9	12	12	達成	
	(2) 人材育成	①本市職員研修等の充実	13)生涯学習に関する職員研修の参加人数	生涯学習課	人	186	223	225	100	150	達成	
		②生涯学習に係る自主団体等の育成・支援	14) 公民館事業に係る自主団体等の発掘・育成・支援の数	中央公民館	件	50	15	65	53	55	達成	
			15) 「なは市民協働大学」及び「なは市民協働大学院」の卒業生数	まちづくり協働推進課	人	326	500	601	646	867	推進中	
	(3) 企業等との連携	①NPO、大学、企業等とのネットワークづくり	16) 協働大使委嘱者数	まちづくり協働推進課	人	867	1,119	1,218	1,017	1,376	ほぼ達成	
			17) 商店街事務連絡会の開催数	なはまち振興課	回	12	5	10	12	12	停滞	
			18) 新規に健康料理教室を実施する団体数	健康増進課	団体	2	0	2	2	2	達成	
			19) NPO、民間事業者等による管理・運営委託等を行っている社会教育施設、社会体育施設数	生涯学習課	施設	6	6	6	6	7	ほぼ達成	

第2次那覇市生涯学習推進計画 評価一覧

柱	方針	方策	指 標 名	主管課	指標 単位	H28 年度	R 2 年度	R 5 年度	R 2 年度	R6 年度	達成度
2「まなびと実践」による「コミュニティづくり」 （主として学校区域を拠点として）	(1)学校区域を拠点とした「コミュニティづくり」	①総合的な学校開放の推進	20) 地域学校連携施設利用回数及び利用人数	生涯学習課	回	7,941	6,025	10,489	8,600	9,900	達成
					人	186,885	132,073	232,921	190,000	200,000	
			21) 学校体育施設開放の利用率	市民スポーツ課	%	94.4	93	93.1	95.0	95.0	停滞
		22) 放課後子ども教室等が設置されている小学校校区数	生涯学習課	校区	30	27	30	36	36	推進中	
	②新たな地域自治のしくみづくり	23) 校区まちづくり協議会設立校区数（累計）	まちづくり協働推進課	校区	6	13	15	14	26	ほぼ達成	
		(2)家庭教育力・地域教育力の充実	①家庭教育力の充実	24) ブックスタート事業参加率	生涯学習課	%	98.6	－	99.9	99.0	99.5
	25)乳幼児学級・家庭教育学級・親子ふれあい教室の参加者の満足度			中央公民館	%	98	95.6	96.7	98	98	停滞
	26)地域子育て支援拠点施設数			こども教育保育課	施設	18	19	17	19	19	停滞
	27)親のまなびあいプログラムの受講団体数			生涯学習課	団体	15	2	4	16	17	停滞
	②地域教育力の充実		28)放課後子ども教室に関わるスタッフ（推進員・サポーター・コーディネーター、ボランティア）の参加人数	生涯学習課	人	277	273	254	292	298	停滞
			29)“やる気・元気旗頭フェスタ in なは”に関わる大人の参加人数	生涯学習課	人	299	－	320	305	310	達成
	3県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり	(1)歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進	①歴史・文化資源等を生かした事業の充実	31)文化財展示会・解説会の開催数	文化財課	回	15	10	24	18	24
32)歴史・文化講座（首里大学等）の受講者数				文化財課	人	371	0	400	380	380	達成
33)出前こども博物館の講座数				文化財課	回	7	17	20	9	25	ほぼ達成
34)「今後うちなーぐちを少しずつ使いたいと思う」人の割合				文化振興課	%	70	—	96.0%	80%	95%	達成
35)なは市民芸術展へ作品を出展する応募者数				文化振興課	人	125	144	138	135	150	ほぼ達成
②市民との協働による歴史・文化の推進			36)史跡めぐり案内講師「案内親方」・識名園ボランティアガイド「識名里主」の利用回数	文化財課	回	176	21	157	190	190	停滞
			37)地域団体との共催事業数	文化財課	件	5	2	5	6	7	推進中
			38)那覇まちま〜い利用者数	観光課	人	15,288	2,522	1,244	23,800	30,000	停滞
			39)なは青年祭参加団体数	生涯学習課	団体	18	－	11	20	22	停滞
						5					

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

資料編

第2章 生涯学習の現状と課題

2.1.生涯学習について国、県の動向

国の動向

令和5年6月に第4期「教育振興基本計画」が閣議決定され、コンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、今後の教育政策に関する5つの基本的な方針が示されました。

《今後の教育政策に関する5つの基本的な方針》

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

沖縄県の動向

令和5年3月に第四次「沖縄県生涯学習推進計画」が策定され、基本目標に「持続可能な生涯学習社会の実現を目指して」が掲げられました。また、生涯学習の推進のために、4つの方向性が示されました。

《推進の方向性》

- ①新しい時代の生涯学習社会の構築
- ②生涯学習の現状の調査・分析
- ③総合的な教育施策としての生涯学習の推進
- ④市町村及び関係機関との連携・協働による生涯学習の推進

2.2.那覇市における生涯学習の動向と課題（現状を踏まえて）

（１）那覇市の動向

令和5年10月に、第5次「那覇市総合計画」を改訂し、「まちづくりを支える新たな架け橋」として、「デジタル社会の実現(DX)」、「持続可能な社会の実現(SDGs)」、「生きがいのある社会の実現（Well-being）」の3つを追加しました。

めざすまちの姿の一つに、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」が掲げられています。

「那覇市総合計画」の部門計画として、令和3年3月に、第3次「那覇市教育振興基本計画」を策定し、政策の一つに「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」が掲げられ、施策として「どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる」、「どこでも誰でも生涯スポーツができるまちをつくる」、「学校が学びや育ちの拠点となるまちをつくる」ことが示されました。

「那覇市総合計画」、「那覇市教育振興基本計画」を補完する計画として、平成30年3月に、第2次「那覇市生涯学習推進計画」を策定し、生涯学習推進の三つの柱として、「協働による生涯学習のまちづくり」、「『まなびと実践』によるコミュニティづくり～主として学校区域を拠点として～」、「県都『なは』の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり」を掲げ、推進してきました。

（２）那覇市の課題（現状を踏まえて）

令和6年度に実施した市民アンケート調査から、8割以上の市民が、直近1年間で生涯学習を行っており、学びを通して「人や地域社会とのつながり」が育まれ、「生活が改善され」「人生や生活をより豊かにしている」等の様子が伺えます。また、学ぶ手段として、インターネット（オンライン学習を含む）の活用が顕著となっています。

一方で、「生涯学習を行っていない理由」として、主に「時間」、「費用」、「場所」のほか、「情報」や「学ぶきっかけ」の不足などが挙げられており、第2次那覇市生涯学習推進計画の評価の考察（第1章P●）にも掲げた、学習情報の提供や周知方法の工夫・改善についても引き続き推進する必要があります。

また、多様な市民が気軽に学ぶ活動に参加するために、デジタル技術等を活用した「時間、費用、場所の制約の緩和」、学びを継続し実践するための「人（仲間）や地域との交流やつながりづくり」等も課題として示されています。国や県の動向及び本市の実情等も踏まえ、本市においても、生涯学習の従来の役割に加え、地域特性を生かした、以下の課題への対応が、より重要であると考えられます。

➤ ウェルビーイングの実現

「個人」の生涯にわたる自己実現を図る学習や、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」による、市民の生きがいや、幸福感等の向上に資する取組を実践します。

➤ 社会的包摂の実現

貧困の状況にある子供、障がい者、高齢者、孤独・孤立の状態にある者、外国人、性的少数者などの多様な学習ニーズに対応し、誰一人として取り残すことなく、分野横断的な学習機会を提供します。

➤ デジタル社会に対応

デジタル技術等の積極的な活用による学習機会の充実を推進する一方で、デジタルデバイド解消を含め、デジタルによる格差や分断のないデジタル化を実現するための、市民のリテラシー向上を目指します。

➤ 地域コミュニティの基盤形成

地域における「学び」を通じて、人と人とのつながり・絆を深め地域コミュニティの基盤を安定させます。

第3章 生涯学習の推進にあたっての基本理念

3.1.基本理念と基本方針

『基本理念』は、第5次那覇市総合計画のめざすまちの姿の一つである「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」を引き続き継承し、同計画の改訂時に加えた、「未来への視点」及びそれを補完する「まちづくりを支える新たな架け橋」の要素を盛り込みながら、『基本方針（柱）』を定めます。

基本理念

「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」

未来への視点

「つながる力」を広げる視点 , 「稼ぐ力」を高める視点 , 「ひきつける力」が輝く視点

新たな架け橋

デジタル社会（DX）、持続可能な社会（SDGs）、生きがいのある社会（Well-being）の実現

（基本方針：柱）

協働による生涯学習のまちづくり

「まなびと実践」によるコミュニティづくり
～主として学校区域を拠点として～

県都「なは」の歴史・文化・地域特性
を生かしたまちづくり

（推進項目及び個別施策）

【推進項目】



（個別施策）

【推進項目】



（個別施策）

【推進項目】



（個別施策）

第4章 施策体系

4.1.第3次那覇市生涯学習推進計画の体系

各基本方針（柱）ごとに設定した『推進項目』及び『個別施策』を体系的かつ横断的に推進します。

基本理念	基本方針：柱	推進項目	個別施策
「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち」	協働による生涯学習のまちづくり	学習機会の充実	学習情報提供・相談、プログラムの充実
		人材育成	市民・団体・職員等の育成支援
		多様な連携	NPO、大学、企業等との連携
	「まなびと実践」によるコミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～	学校区域を拠点としたコミュニティづくり	総合的な学校開放の推進 新たな地域自治の仕組みづくり
		学校、家庭、地域の教育力の充実	学校、家庭、地域の連携・協働の推進
	県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり	歴史・文化・地域資源等の活用	歴史・文化・地域資源の維持、継承
			地域への誇りや愛着等の醸成
			豊かさや幸福感等への理解

基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

「誰一人取り残さない」観点から、多様な市民の、生涯学習に対する広範なニーズに対応するために、市民一人ひとりが、人生のあらゆる段階や場面において、自分に適した手段・方法を選び、主体的に学習に取り組めるよう、NPO、企業、地域団体等と行政が、それぞれの特性を生かしつつ相互に連携し、協働しながら生涯学習のまちづくりを進めます。また、複雑化・多様化する社会を担う人材等の育成にも取り組みます。

推進項目（1）学習機会の充実

生涯学習に関する情報提供及び発信を強化するとともに、誰もが気軽に相談できる体制を強化し、多様な市民一人ひとりの生涯学習の機会の充実を図ります。

個別施策① 学習情報提供・相談、プログラムの充実 暮らしの未来

「人生100年時代」のあらゆるライフステージにおける、生涯学習関連の情報提供や相談体制を強化しながら、誰もが生涯学習活動に取り組めるよう、デジタル技術等も活用した多様なプログラムの充実を図ります。

また、「障がい者」「外国人」「性的少数者」等をはじめとする多様な市民の生涯学習など、顕在的・潜在的ニーズに対応するための取組を推進します。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	那覇市公民館講座・学級事業	地域生活の課題に関する講座・学級（市民講座・成人講座・高齢者学級・少年教室・青年講座・親子ふれあい学級・家庭教育学級）の実施 地域生活の課題に関する講座・学級を持ち、学習機会の充実、市民間交流を図り、市民の知識及び技能の向上、地域活動への関心を高めます。	中央公民館
2	障がい者等へのサービス	図書館利用の障壁を取り除き、だれでも利用できる施設にします。 具体的には、障がいや高齢等何らかの理由により本を読むことが困難な方も読書ができるように、デジ図書、大活字本、朗読CD等の資料を提供します。また、来館困難者に対し、本の宅配サービスを実施します。さらに、外国にルーツを持つ方などへの対応として、やさしい日本語表記による利用案内を作成します。	中央図書館
3	レファレンス（調査相談）サービス	利用者の求めに応じて、図書館職員はヒアリングを行い、多様な検索ツールを駆使しながら利用者が探している情報を的確に提供します。	中央図書館
4	デジタルを使いこなすスキルの習得	民間事業者と連携したスマホ・タブレット等の利用方法の習得機会の提供します。	企画調整課
5	那覇市生涯学習情報提供システム（あけもどろネット）、生涯学習メニューブック	インターネットをとおし、各公民館等で開催されるイベント・講座などをまとめ、情報提供している、生涯学習情報提供事業。本市の各部署、関係機関で実施されている学習講座・啓発事業などの情報を、広報紙や冊子、ホームページ上等で提供し、誰もが参加しやすい仕組みの構築を図ります。	生涯学習課

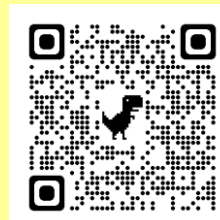
	事業名	事業概要	所管
6	那覇市主催スポーツ・レクリエーション大会関連事業	地域スポーツ教室・ウォーキング講座・ウォーキング大会を開催し、地域住民の生涯スポーツ振興や地域コミュニティづくりの促進を図ります。	市民スポーツ課
7	那覇市福祉のまちづくり推進事業	心のバリアフリー等の推進のため、福祉のまちづくり推進員の設置、小学生対象のセミナー、障がい当事者講話による普及啓発	福祉政策課
8	芸術・文化講座開催等事業	障害者総合支援法に規定された地域生活支援事業における「芸術・文化講座開催等事業」であり、美術活動を通じて障がい者の社会参加の機会を拡大するとともに、障がい者に対する市民の理解や認識を深めることを目的に「那覇市障がい者美術展」を開催します。	障がい福祉課
9	理解促進研修・啓発事業	障害者総合支援法第77条第1項第1号（理解促進研修・啓発事業）の規定に基づき、障がい者等や障がい特性等に関する地域住民の理解を深めるための、又は「心のバリアフリー」の推進を図るための研修及び啓発活動を実施することにより、障がい者等が日常生活及び社会生活を営む上で生じる「社会的障壁」の除去及び共生社会の実現を図ることを目的とした事業です。	障がい福祉課
10	「思春期の心と体」のための意識啓発事業	若年層へのあらゆる暴力の根絶を図るための意識啓発や自尊心・自己肯定感を高める教育を行い、いじめ防止やデートＤＶ防止、将来のＤＶ防止へ繋がります（市内公立中学全校にて実施）。	平和交流・男女参画課
11	交通に対する意識改革	クルマに頼り過ぎない暮らしの推進を図るため、環境や交通に関する教育やモビリティマネジメント(MM)施策の取組みを推進します。	都市計画課
12	口腔保健推進事業	本市の状況に応じた歯科口腔保健施策を推進するため、口腔保健支援センターを新たに設置し運営します。また、市民の口腔の健康保持増進を図るため、むし歯予防や歯周病予防、食育の推進等を行い、歯科疾患の予防及び口腔機能の維持向上に関して取組を行います。	健康増進課
13	発達支援保育巡回相談事業	発達支援保育を実施している保育園・こども園の職員およびその対象となる保護者に対し、巡回による相談や研修会などの支援事業を実施します。	こども教育 保育課
14	那覇市上下水道局水道ポスターコンクール	毎年6月1日から7日に実施される国交省及び環境省の主唱する水道週間にあわせて、小・中学生のみなさんに、水道に対する理解と親しみをもってもらいたいことを目的に毎年開催しています。（水道週間イベント時に表彰式を行います）	上下水道局 総務課
15	那覇市上下水道モニター事業	那覇市水道事業及び下水道事業の全般にわたって、需要者の意見及び提案等を把握し、あわせて事業運営の理解等を促すことにより、サービスの向上と効率的かつ効果的な事業運営を推進することを目的として毎年約15名のモニターを募っています。	上下水道局 総務課
16	那覇市緑化センター管理運営業務	緑化意識及び緑化技術向上の普及のための講習会、講演会、展示会の開催	公園管理課

生涯学習お役立ち情報

<オンライン学習ツール>

- ・デジタル公民館®
<https://www.kk2.ne.jp/kk2/seminar/index.html/>
- ・JMOOC
<https://www.jmooc.jp/>
- ・地方創生カレッジ
<https://chihouseisei-college.jp/>
- ・gacco
<https://gacco.org/>

- ・Schoo
<https://schoo.jp/>
<那覇市生涯学習情報提供システム>
（あけもどろネット）



基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

推進項目（2）人材育成

変化の激しい予測困難な時代を背景に、多様化かつ高度化する学習ニーズや、より一層複雑化する社会課題や地域課題等へ対応するため、リカレント教育やリスキリング等を含む市民の学習意欲を促進する役割を担い、学びを地域社会に還元する、社会の担い手を育成するための取組を推進します。

個別施策① 市民・団体・職員等の育成支援 夢の未来

時代に即した学習機会を提供しつつ、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える専門性などを備えた人材の育成を推進し、社会の担い手としての個人及びその集合体である組織や団体等の育成を支援します。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	那覇市リスキリング推進支援事業	個人のスキル・能力の向上により域内企業、産業等の成長発展、ひいては地域経済の活性化に資することを目的とし、就労中又は就職活動中の方など、すべての方（原則18歳以上の方）を対象に学び直しに取り組むことの機運醸成を図るため、職務に活かせる知識を学び直し或いは学び直しのきっかけとなるセミナーや講座を実施します。	商工農水課
2	小中学生キャリア教育支援	若年層の失業率、定着率の改善を目指し、早期からの職業意識の醸成、職業観やキャリアデザインの形成を図るため、職業人講話や企業体験等を実施します。	商工農水課
3	那覇市IT人材育成支援事業	次世代を担う市内の小中学生を対象にプログラミング講座等を通して、情報技術に関する興味を抱き、論理的思考を身につけ、かつ日常生活が情報技術を活用した産業で支えられていることに気付くことで、将来のキャリア形成に役立てることを目的とする事業。	商工農水課
4	なはし外国人雇用促進支援事業	外国人人材雇用の活用促進を図り、新たな人材等の活用による域内企業、産業等の維持・成長発展、ひいては地域経済の活性化に資することを目的とし、企業や人事担当者向けに外国人材活用に関するセミナーや専門家派遣の実施、好事例・ガイドブックの作成等を行います。	商工農水課
5	那覇市金融リテラシー向上支援事業	18歳以上の那覇市民等を対象に、セミナー、グループワーク等の金融の学びの場を提供することによって、本市民の金融リテラシーの向上、金融トラブルの回避、市民の可処分所得の向上等といった正のスパイラスの創出に繋げていきます。	商工農水課
6	なはし社会地域課題解決型起業支援事業	市内産業・経済のさらなる活性化を図ることを目的とし、市内の抱える社会課題、地域課題の解決を目的とした起業及び新規事業を行うものに対して、費用の一部を助成及び専門家等の派遣等を行い、スタートアップ企業等の創出及び成長の後押しをするものです。	商工農水課
7	高度IT人材育成研修等補助事業	情報通信関連の人材育成に関する経費の一部を補助することにより、人材育成の環境整備を進め、市内で働くIT関連従事者の技術向上や高度人材の創出を図ります。	商工農水課
8	なは市民協働大学院	地域及び新たなコミュニティの形態として全市域に展開する「校区まちづくり協議会」などで中心となって活動することができる人材や自らの意見を発信し市政に積極的に関わることができる人材を発掘・育成を目的として開催します。	まちづくり協働推進課
9	なは市民活動支援事業	学識経験者などからなる「那覇市協働によるまちづくり推進審議会」が、協働によるまちづくりを推進する市民団体の活動に対する助成金を公開審査により選定し交付します。	まちづくり協働推進課

	事業名	事業概要	所管
10	協働によるまちづくり推進事業	市民主体の協働によるまちづくりを推進するため、那覇市協働大使委嘱、那覇市協働によるまちづくり推進協議会への補助を行うとともに、協働によるまちづくり推進審議会を運営します。	まちづくり協働推進課
11	防災講話や訓練等の実施	災害時に自助・共助による取り組みが機能し被害の拡大を防止することを目的とし、自治会等への防災講話等や地域住民が行う避難訓練を通して防災意識及び知識の向上を図り地域住民等の災害対応力を高めます。	防災危機管理課
12	社会教育関係職員研修	那覇市の社会教育関係職員を対象に、社会教育主事講習を含む研修等の情報提供を行うとともに、職員の資質向上のための研修を企画・運営します。	生涯学習課
13	給付型奨学金事業	成績優秀で修学する意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で大学等進学が困難な者に対して県内大学等への進学を支援し、本市における人材育成を促進することを目的に、入学及び修学に必要な奨学金を給付します。	生涯学習課
14	まーいまいNaha人材育成外国語講座事業	外国人観光客の満足度向上に向け、「うとういむち（おもてなし）」の出来る観光関連産業従事者を育成するとともに、市民が外国人観光客に気軽に対応できる風土の醸成及び異文化理解を図るため、英語・中国語・韓国語によるうとういむち講座及び交流会を実施します。	生涯学習課
15	救命講座普及啓発推進事業	傷病者が発生した場合、現場におけるバイスタンダー（その場に居合わせた人）による応急手当が重要であることから、心肺蘇生法やA E Dの取扱い等の各種救命講習会を実施します。	救急課
16	放課後児童支援員等資質向上研修事業	放課後児童支援員等の資質向上を図るため、放課後児童健全育成事業所の運営や子どもの育成支援に関する事項について、基礎的な知識や事例、技術等の共有を図ることを目的とした研修を県と連携して実施します。	こども政策課
17	保育士試験受験者支援事業	待機児童と保育士不足の解消を図る目的で、必要な保育士資格取得者数の拡大に向けた取組みとして、保育士試験対策講座を開催します。	こども政策課
18	食の健康づくり事業	外食等の利用機会が多い本市の実状に合わせ、食環境面から市民の健康増進を図ることを目的に実施する。また、地域において市民の健康づくり支援を担う、保健ボランティアの「食生活改善推進員」を養成、育成活動を行っている「那覇市食生活改善推進協議会」に対して補助金を交付し、活動を支援します。	健康増進課
19	都市計画に関するまちづくり活動支援	都市計画マスタープランの分野別まちづくり方針及び地域まちづくり方針を踏まえ、都市計画に関するまちづくり活動のためのアドバイザー派遣や講座開催等により、市民と行政の協働による地区のまちづくりを推進します。	都市計画課
20	認知症サポーターの養成講座	認知症サポーターの養成講座を開催し、多くのサポーターを養成や活動する機会の充実を図り、認知症に対する地域住民の理解を深め、地域全体で認知症の人や家族を見守り、支えるための環境づくりを目指します。	ちゃーがんじゅう課

写真・図等

写真・図等

写真・図等

基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり

推進項目（3） 多様な連携

多様な市民一人ひとりの、あらゆる成長段階や場面における学習機会を途切れなく充足するため、多種多様なセクターの内外における連携を促進し、各セクターの特性や強みを最大限に発揮できるよう努めます。

個別施策① NPO、大学、企業等との連携 課題の未来

NPO、大学、企業等をはじめとする、各セクターの有する専門性や資源等を有機的に連携しながら、協働による相乗効果を生み出すことで、学びの多様化や高度化、地域等と一体となった活動を推進します。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	なはSDGs推進事業 （多様なつながり地域づくり）	SDGs達成につながる多様なステークホルダーによる本市における協働の活動に助成する事業。	まちづくり 協働推進課
2	那覇市人材データベース事業	地域の課題解決につなげることを目的に、ボランティア人材とボランティアを求める団体についてリスト化を行い、相互に情報提供等を行いながら、マッチングを図ります。	まちづくり 協働推進課
3	那覇市地球温暖化対策協議会	市民、事業者及び行政機関等の協働により、那覇市域における総合的な地球温暖化対策の推進を図ることで、地球温暖化の防止に寄与することを目的に平成20年に設置。 令和6年4月1日時点、全会員52（事業者38、団体11、個人3）	環境政策課

写真・図等

写真・図等

写真・図等

基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり
～主として学校区域を拠点として～

市民一人ひとりの生活を支え、地域と人のつながりによる社会的包摂を実現するために、学校区域を拠点にして、地域住民の主体的の学びと、「学び」を通じた実践やつながりづくりを支援し、学校、家庭、地域社会が連携・協力する仕組みを築きます。

推進項目（1） 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

地域住民が学習活動を通じて絆を形成し、コミュニティづくりへの参画や生活課題等の解決を図っていくため、学校の施設・設備の地域住民への開放の推進や地域の人材活用の充実に努めます。住民自治の育成・発展及び協働によるまちづくりのさらなる推進を図るため、校区まちづくり協議会の設立など、新たな地域自治の仕組みづくりを進めます。

個別施策① 総合的な学校開放の推進 （基本案）

地域住民の身近な場所である学校施設を、地域の人々や団体等をつなぐ場、子育て・健康・福祉サービスを行う場等のコミュニティの拠点として位置づけ、学校施設の開放を推進します。

また、地域学校連携施設等における、施設利用の利便性向上を進め、地域住民の学びと実践の機会を充実させることで、地域コミュニティの基盤の強化を図ります。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	総合的な学校開放推進事業	小中学校の地域学校連携施設を地域住民の生涯学習の場および地域コミュニティの活動の場として活用します。	生涯学習課
2	学校体育施設開放事業	小・中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放し、市民の体力向上と生涯スポーツの振興を図ります。	市民スポーツ課



基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり
～主として学校区域を拠点として～

推進項目（1） 学校区域を拠点としたコミュニティづくり

個別施策② 新たな地域自治の仕組みづくりの未来

住民の主体的な参画による自治の育成・発展及び協働によるまちづくりのさらなる推進を図るため、校区まちづくり協議会の設立を進めます。学校区域を拠点に、地域住民の主体的な学びと、「学び」を通じた実践や交流の場を提供することにより、まちづくりと学びの効果的な連携を目指します。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	校区まちづくり協議会支援事業	小学校区内にある多くの団体・地域住民が参加して、心の通い合う人間関係を生み出し、活力に満ちた、人間性豊かな地域社会を築き、次世代にそまちづくりれらを伝えていくための小学校区を単位とした新たなコミュニティを市内全域に展開するため、補助等を行います。	協働推進課
2	総合的な学校開放推進事業（再掲）	小中学校の地域学校連携施設を地域住民の生涯学習の場および地域コミュニティの活動の場として活用します。	生涯学習課

写真等

写真等

写真等

基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり ～主として学校区域を拠点として～

推進項目（2） 学校、家庭、地域の教育力の充実

学校を取り巻く問題の複雑化・困難化、家庭環境の多様化、変化の激しい地域社会に対応しながら、社会的包摂を推進する観点から、学校、家庭、地域の教育力の向上を推進するため、子供たちの地域社会への参画や親、大人の学びの支援を含む、地域連携事業、子育て支援事業等に努め、地域力を高めていきます。

個別施策① 学校、家庭、地域の連携・協働の推進

学校、家庭、地域が連携し多様な担い手が協働することで、「誰一人取り残さない」まなびと実践の場の充実を図り、学校、家庭、地域の課題の解決に資する、地域力を促進する取組を展開します。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	地域学校協働活動推進事業 (学校支援等)	幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるため、地域と学校等が連携・協働して行う校内外における様々な活動（地域学校協働活動）を推進する。地域学校協働活動を推進するため、地域と学校等をつなぐ「地域学校協働活動推進員」を配置し、安定的かつ継続的に協働活動ができるよう体制づくりを行います。	生涯学習課
2	地域学校協働活動推進事業 (放課後子ども教室)	放課後に学校施設等を活用し、子どもたちに対して、学習支援やスポーツ、伝統文化活動、地域住民との交流活動など、多様な学びの機会を提供することで、安全・安心な放課後の居場所づくりおよび子どもたちの健全育成に寄与します。	生涯学習課
3	ブックスタート事業	絵本をとおして親子のふれあいを高めることにより、親がゆとりをもち安心して子育てができ、赤ちゃんの心と体が豊かに育つことを支援します。	生涯学習課
4	那覇市学校運営協議会 (コミュニティ・スクール)	学校運営への支援等を推進するために、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校と保護者・地域住民等が育てたい子ども像を共有し、共通の課題について協議する機関としての学校運営協議会を設置し、未来の創り手となる児童生徒を育成する事業。	学校教育課
5	那覇市公民館地域連携・世代間交流事業	世代間交流・地域連携が図れる事業（参加できる世代を問わず、今後も継続性が見込まれる事業等）の実施。 地域で全ての世代が参加できる事業を実施し、各世代間の交流を図り、その交流を活かした連携・協働から、まちづくりへの関心を高めます。	中央公民館
6	子育て世代包括支援センター 運営事業	各機関で個々に行われてきた妊娠期から子育て期までの支援を、ワンストップ窓口で行うことを目的に設置された子育て世代包括支援センター運営のための事業。妊産婦及び子育て家庭の個別ニーズを把握し、情報提供や相談支援を行うことで、必要なサービスを円滑に利用できるための支援を行います。	こどもえがお相談課
7	子育て世帯訪問支援事業	家事・育児等に対して不安や負担を抱える子育て家庭、妊産婦、ヤングケアラー等がいる家庭の居宅を訪問支援員が訪問し、家庭が抱える不安や悩みを傾聴するとともに、家事・育児等の支援を実施することにより、家庭や養育環境を整え、虐待リスク等の高まりを未然に防ぎます。	こどもえがお相談課
8	子育て支援事業	こども園、保育所等においては、地域における子育て家庭の支援について、子育て応援DAYを通して行う。また、地域子育て支援センターや、つどいの広場においては、子育て世帯のニーズに合わせた内容の充実を図り、利用者支援の拡充を進めます。	こども教育保育課
9	校区まちづくり協議会支援事業 (再掲)	小学校区内にある多くの団体・地域住民が参加して、心の通い合う人間関係を生み出し、活力に満ちた、人間性豊かな地域社会を築き、次世代にそれらを伝えていくための小学校区を単位とした新たなコミュニティを市内全域に展開するため、補助等を行います。	まちづくり 協働推進課

基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

ウェルビーイングの実現には、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることが求められています。地域の独自の歴史や文化、自然環境などをはじめとした地域特性を生かし、生涯学習を通して、個人の成長のみならず、地域社会の発展やウェルビーイングに資するまちづくりを推進します。

推進項目（1）歴史・文化・地域資源等の活用

那覇市は、政治・経済の中心地として、独自の歴史・文化を背景に、多くの国・県・市指定の文化財が存在します。さらに、伝統芸能や祭り行事も盛んであり、これらをはじめとする豊かな地域資源を生かしていくため、伝統文化の保存・活用及び新たな文化活動を創出し、地域への誇りや愛着等を育みます。また、豊かさや幸福感等を感じられる持続可能な住みよい暮らしを実現するため、地域社会の発展と環境の保全や自然などの地域資源との調和を図ります。

個別施策① 歴史・文化・地域資源の維持、継承 （県の未来）

那覇市内各地の歴史や文化をはじめとする地域の特性等に関する学びの機会を充実させ、自然環境を含む地域資源の維持、継承を促進することで、各地域の特性を生かした持続可能なまちづくりを進めます。また、沖縄の伝統文化の基層であるうちなーぐちの普及啓発にも取り組みます。

<関連する主な取り組み>

	事業名	事業概要	所管
1	文化財関連施設運営事業	文化財関連4施設（壺屋焼物博物館、那覇市歴史博物館、識名園、玉陵）の運営を通して、那覇市の歴史及び文化資源について学ぶ場や機会を提供します。	文化財課
2	歴史・文化に関する講座・解説会などの実施	歴史・文化に関する講座等を開催することで、地域資源に対する理解を深め、保全・継承を図ります	文化財課
3	那覇爬龍船振興会補助金	那覇ハーリーにおいて実施される爬龍船競漕を本市の伝統行事として保存・継承しながら、観光資源として活用し、観光振興・観光誘客を図ります。	観光課
4	温暖化対策啓発事業	本市は、ゼロカーボンシティ宣言を令和6年1月31日に行っており、2050年までの二酸化炭素実質ゼロを目指している。脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化対策啓発活動として、環境講座を実施しています。	環境政策課
5	環境啓発委託事業	本事業は、環境学習等を通して身近な那覇市の自然環境に触れることで、その大切さを認識してもらうための主催事業、出前講座（20回以上）及びこどもエコクラブ活性化事業を委託します。 出前講座は学校・自治会・児童クラブ等を中心とした団体からの講座依頼に対し講師派遣を行います。	環境保全課
6	自然観察会実施	市民が自然観察会や環境学習をとおして市内の身近な自然環境の現状を知り、その大切さを認識してもらうとともに自然環境保全の重要性を理解してもらうことを目的として自然観察会を実施しています。	環境保全課

基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり

推進項目（1）歴史・文化・地域資源等の活用

個別施策② 地域への誇りや愛着等の醸成 県民の未来

地域の独自の歴史や文化、自然環境などを生かした、市民の体験や発表、創作の機会等を支援し、市民の地域に対する誇りや愛着等を醸成するための取組の充実を図ります。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	青少年旗頭事業	市内小中学生を対象に、本市の伝統文化である旗頭を用いた活動に取り組んでもらい、地域の方々との相互交流や参加する子ども同士の友情を深めながら、子どもたちの「居場所づくり」を進めています。また、活動の成果発表の場として「やる気・元気 旗頭フェスタinなは」を開催します。	生涯学習課
2	観光まちづくり整備補助金	那覇市観光協会の実施する「那覇まちまーい」に係る経費の一部を支援する。「那覇まちまーい」は、地元ガイドと共に地域の資源を見てまわる「まち歩き」を行い、ガイドとのふれあいを通じまちの歴史や文化を学ぶことで、まちへの愛着が深まり、生涯学習の機会充実につなげます。	観光課
3	沖縄の「食」の魅力体験支援事業	第一牧志公設市場の調理体験室・多目的室を活用し、「食」をテーマにしたイベントを開催し、市民・県民並びに観光客の沖縄の食文化について理解と関心を深めるとともに、第一牧志公設市場を核として中心商店街への回遊性を促進します。	なはまち振興課
4	頑張るマチグー支援事業 那覇市地域商店街等支援事業	那覇市の中心商店街その他の商店街の活性化に向けた事業を行う者の創意工夫による積極的な取り組みを支援する。	なはまち振興課
5	うちなーぐち普及継承事業	うちなーぐちの保存・普及・継承を目的に市民参加型の自主事業を実施し、うちなーぐちの魅力と価値を再認識することで、普及啓発と市民文化活動の活性化を図ります。	文化振興課
6	博物館企画展・特別展の開催	【那覇市歴史博物館】「都市の文化」を紹介する常設展示、国宝の特別展示以外に時期等を考慮したテーマを設定し、テーマに沿った「那覇」「沖縄」に関連する歴史資料を展示する企画展の開催。 【壺屋焼物博物館】「壺屋焼」をはじめとする沖縄の焼物の歴史や文化など焼物を中心とした企画展や特別展の開催。	文化財課

個別施策③ 豊かさや幸福感等への理解 県民の未来

歴史・文化、自然等をはじめとする地域資源などについて知るだけでなく、学びを通して、地域や住民の交流を促進し、地域の特性を維持し発展することが、個人及び地域社会の豊かさや幸福感につながることを認識できるよう、生涯学習の普及啓発に努めます。

＜関連する主な取り組み＞

	事業名	事業概要	所管
1	SDGs推進事業	SDGsについての理解を向上させるため、SDGsの専門家による職員研修を行います。 また、市民・市内企業におけるSDGs推進に対する機運の醸成を図ることを目的に、SDGsをテーマにした隔年度毎にシンポジウムを開催します（シンポジウム開催年度：令和3・5・7年度）。	企画調整課
2	なはーと文化芸術事業	令和3年度開館した「那覇文化芸術劇場なはーと」において、より積極的に文化芸術を発信するため、「創造・発信事業」、「鑑賞事業」、「普及・人材育成及び交流事業」の3つに類型化し、効果的な事業を展開します。	文化振興課

＜施策体系一覧＞

基本方針	推進項目	関連する主な取り組み	所管
協働による生涯学習のまちづくり	学習機会の充実	学習情報提供・相談、プログラムの充実	
		1 那覇市公民館講座・学級事業	中央公民館
		2 障がい者等へのサービス	中央図書館
		3 レファレンス（調査相談）サービス	中央図書館
		4 デジタルを使いこなすスキルの習得	企画調整課
		5 那覇市生涯学習情報提供システム（あけもどろネット）、生涯学習メニューブック	生涯学習課
		6 那覇市主催スポーツ・レクリエーション大会関連事業	市民スポーツ課
		7 那覇市福祉のまちづくり推進事業	福祉政策課
		8 芸術・文化講座開催等事業	障がい福祉課
		9 理解促進研修・啓発事業	障がい福祉課
		10 「思春期の心と体」のための意識啓発事業	平和交流・男女参画課
		11 交通に対する意識改革	都市計画課
		12 口腔保健推進事業	健康増進課
		13 発達支援保育巡回相談事業	こども教育保育課
		14 那覇市上下水道局水道ポスターコンクール	上下水道局総務課
		15 那覇市上下水道モニター事業	上下水道局総務課
		16 那覇市緑化センター管理運営業務	公園管理課
	人材育成	市民・団体・職員等の育成支援	
		1 那覇市リスティング推進支援事業	商工農水課
		2 小中学生キャリア教育支援	商工農水課
		3 那覇市IT人材育成支援事業	商工農水課
		4 なはし外国人雇用促進支援事業	商工農水課
		5 那覇市金融リテラシー向上支援事業	商工農水課
		6 なはし社会地域課題解決型起業支援事業	商工農水課
		7 高度IT人材育成研修等補助事業	商工農水課
		8 なは市民協働大学院	まちづくり協働推進課
		9 なは市民活動支援事業	まちづくり協働推進課
		10 協働によるまちづくり推進事業	まちづくり協働推進課
		11 防災講話や訓練等の実施	防災危機管理課
		12 社会教育関係職員研修	生涯学習課
		13 給付型奨学金事業	生涯学習課
		14 まーいまいNaha人材育成外国語講座事業	生涯学習課
		15 救命講座普及啓発推進事業	救急課
		16 放課後児童支援員等資質向上研修事業	こども政策課
		17 保育士試験受験者支援事業	こども政策課
		18 食の健康づくり事業	健康増進課
		19 都市計画に関するまちづくり活動支援	都市計画課
		20 認知症サポーターの養成講座	チャージンじゅう課
	多様な連携	NPO、大学、企業等との連携	
		1 なはSDG S推進事業（多様なつながり地域づくり）	まちづくり協働推進課
		2 那覇市人材データバンク事業	まちづくり協働推進課
		3 那覇市地球温暖化対策協議会	環境政策課

<施策体系一覧>

基本方針	推進項目	関連する主な取り組み	所管
「まなびと実践」による「コミュニティづくり」	学校区域を拠点としたコミュニティづくり	総合的な学校開放の推進	
		1 総合的な学校開放推進事業	生涯学習課
		2 学校体育施設開放事業	市民スポーツ課
		新たな地域自治の仕組みづくり	
	学校、家庭、地域の教育力の充実	1 校区まちづくり協議会支援事業	まちづくり協働推進課
		2 総合的な学校開放推進事業（再掲）	生涯学習課
		学校・家庭・地域の連携・協働の推進	
		1 地域学校協働活動推進事業（学校支援等）	生涯学習課
		2 地域学校協働活動推進事業（放課後子ども教室）	生涯学習課
		3 ブックスタート事業	生涯学習課
		4 那覇市学校運営協議会（コミュニティスクール）	学校教育課
		5 那覇市公民館地域連携・世代間交流事業	中央公民館
		6 子育て世代包括支援センター運営事業	こどもえがお相談課
		7 子育て世帯訪問支援事業	こどもえがお相談課
県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり	歴史・文化・地域資源等の活用	8 子育て支援事業	こども教育保育課
		9 校区まちづくり協議会支援事業（再掲）	まちづくり協働推進課
		歴史・文化・地域資源の維持、継承	
		1 文化財関連施設運営事業	文化財課
		2 歴史・文化に関する講座・解説会などの実施	文化財課
		3 那覇爬龍船振興会補助金	観光課
		4 温暖化対策啓発事業	環境政策課
		5 環境啓発委託事業	環境保全課
		6 自然観察会実施	環境保全課
		地域への誇りや愛着等の醸成	
		1 青少年旗頭事業	生涯学習課
		2 観光まちづくり整備補助金	観光課
		3 沖縄の「食」の魅力体験支援事業	なはまち振興課
		4 頑張るマチグー支援事業	なはまち振興課
		5 那覇市地域商店街等支援事業	なはまち振興課
		6 うちなーぐち普及継承事業	文化振興課
		7 博物館企画展・特別展の開催	文化財課
		豊かさや幸福感等への理解	
		1 SDGs推進事業	企画調整課
		2 なはーと文化芸術事業	文化振興課

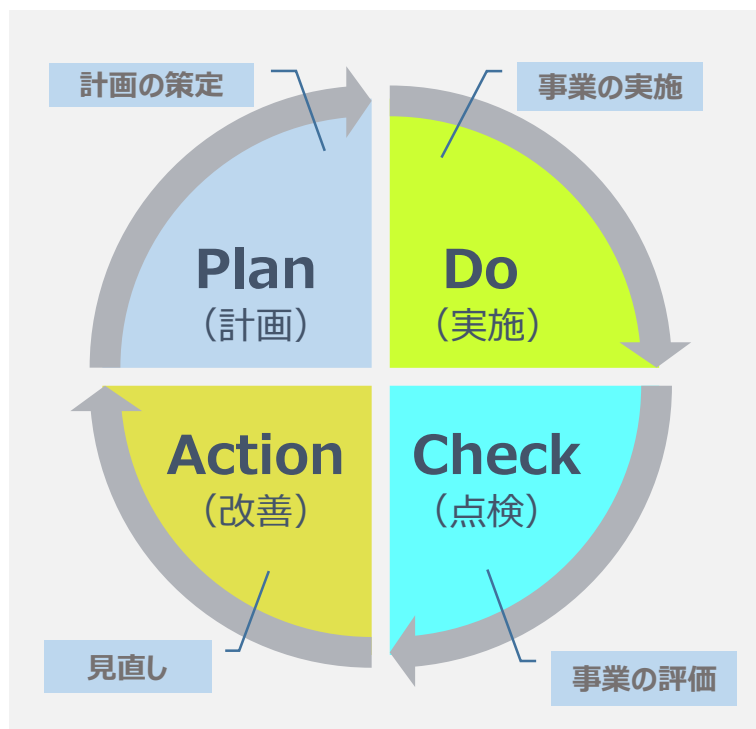
第5章 計画推進のしくみ

5.1.施策・事業の評価と活用

(1) 進捗管理について

計画の施策・事業に係る進捗管理の手法は、各所管課にて、右記のPDCAサイクルを活用して毎年度実施します。

なお、社会情勢や生涯学習を取り巻く状況の変化等に、柔軟に対応できるよう、必要に応じた計画及び取組の見直しを行えるものとします。



(2) 計画の評価について

本計画の評価は、内部評価及び那覇市生涯学習推進協議会の外部委員の意見に加え、市民意識調査やデジタル庁の「地域幸福度（Well-Being）指標」等を活用したアウトカム評価を行います。

評価の実施結果については、市ホームページ等を通して市民へ公表します。

評価結果は、次期計画策定のあり方のほか、各関連施策の推進または維持・改善等の見直しに活かします。

①柱ごとの評価:アウトカムの推移等（市民意識調査及び地域幸福度(Well-Being)指標等）

②各施策の評価:アウトプットの推移等



© Digital Agency, Government of Japan

(3) 基本方針（柱）ごとの評価について

各基本方針（柱）ごとの評価については、アウトカム評価の観点も盛り込み、以下の指標（市民意識調査及び地域幸福度(Well-Being)指標）の推移等を踏まえながら、本計画の総体的な評価を行います。

基本方針：柱1 協働による生涯学習のまちづくり	R5年度 (現状値)	R7年度	R9年度	R11年度
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (市民意識調査：「満足」「まあ満足」の割合の合計)	50.2%	52%	54%	56%
参考指標	出典			
人口あたり生涯学習講座数	地域幸福度 (Well-Being)指標			
人口あたり生涯学習講座受講者数				
学べる機会				
教育機会の豊かさ				
多様性と寛容性				
多様性政策指数				
基本方針：柱2 「まなびと実践」によるコミュニティづくり	R5年度 (現状値)	R7年度	R9年度	R11年度
あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していますか。(市民意識調査：「参加している」の割合)	20.6%	23%	25%	27%
参考指標	出典			
地域とのつながり	地域幸福度 (Well-Being)指標			
コミュニティ活動盛ん				
基本方針：柱3 県都「なは」の歴史・文化・地域特性を生かしたまちづくり	R5年度 (現状値)	R7年度	R9年度	R11年度
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (市民意識調査：「満足」「まあ満足」の割合の合計)	63.8%	65%	67%	69%
参考指標	出典			
文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、本市内での文化的な環境に満足していますか。(「満足」「まあ満足」の割合の合計)	市民意識調査			
あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。(「愛着を感じる」の割合)				
現在、あなたはどの程度幸せですか。(平均幸せ度数)				
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (満足度「平均評価点」)				
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (重要度「平均評価点」)	地域幸福度 (Well-Being)指標			
文化芸術				
幸福度				
生活満足度				

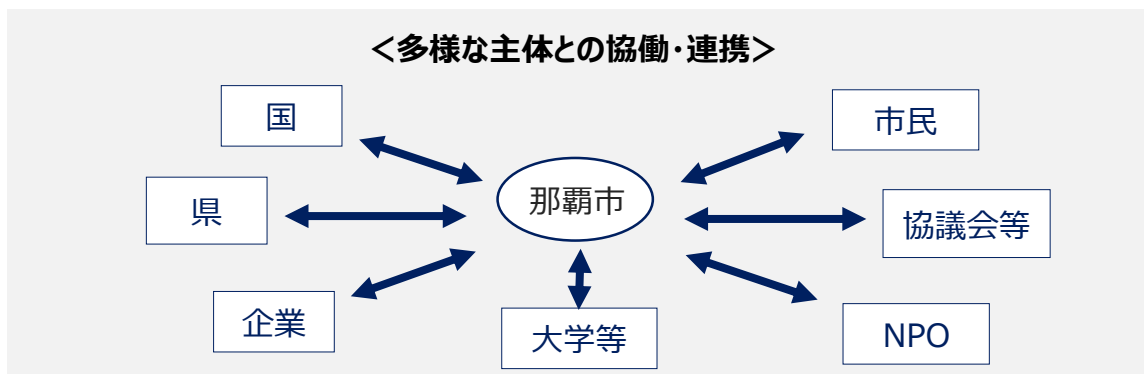
5.2.計画の推進に向けて 実現を目指す那覇の未来

(1) 多様な主体との協働・連携

生涯学習の条件整備が必要とされてきた背景には、社会の変化によって直面する様々な課題に対し、市民一人一人が「我が事」として解決できるような基盤整備として、いつでも、どこでも、だれでも学べる社会を目指すという考え方があります。

那覇市は、多くの先人達が築いてきた伝統や歴史、文化を礎とした、様々な分野で活躍する人材や生涯学習施設・関連施設、NPO等が提供する学習や活動の機会といった豊富な学習資源が存在しています。

計画の推進を通して、多くの市民が主体的な「まなび」の場の拡充及び「実践・行動」によるつながりを広げるとともに、市民、NPO、企業、大学、行政等が相互に信頼関係のうえに立って、協働しながら様々な社会課題や生活課題に取り組むことが肝要です。

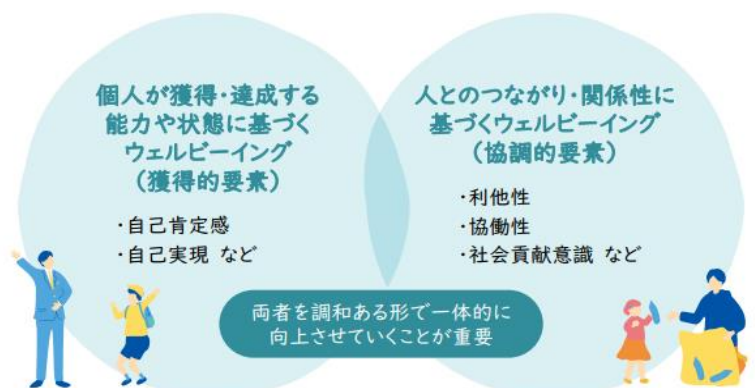


(2) 市民の生きがい (Well-being) の創出

人生100年時代、Society5.0の到来、DXの急速な進展など、変化の激しい予測困難な（VUCAの）時代においても、市民が幸せや生きがいを実感でき、豊かな暮らしを送ることができるよう、生涯学習がもつ、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の「学びと活動の循環」を生むという機能の重要度が高まっています。

「学びと活動の循環」を生むプロセスとして、近年AARサイクル（コラム参照）が注目され、市民一人ひとりが、目標に向かって柔軟に修正・改善を繰り返すことで、自分の学びをコントロールする自己調整力を高めることも重要とされています。

本計画をとおして、市民と行政を含む多様な主体が、生涯学習の重要性を共通認識し、市民一人ひとりが主役となって生きがいを創出するために、庁内外における取り組みを推進することを目指します。



出典：第4期教育振興基本計画（リーフレット）

用語解説・コラム等

用語	説明	掲載ページ
AARサイクル	「OECD（経済協力開発機構）ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」で提唱されている、Anticipation（見通し）－Action（行動）－Reflection（振り返り）を繰り返す学習プロセスのこと。	●●、コラム
DX（デジタルトランスフォーメーション）	デジタル技術を活用することで人々の生活をより良いものに変革すること。デジタル技術の活用を通じて、様々なサービス及びそれを生み出す組織や文化・風土を変革し、新しい価値を創出する。	
SDGs	「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現をめざす世界共通の目標のこと。	
Society.5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。	
VUCA	「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」の頭文字を取ったもので、物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状態。	
アウトプット	施策や事業を実施したことにより生じる結果（結果）を示す。	●●、コラム
アウトカム	施策や事業が対象にもたらした変化（成果）を示す。	●●、コラム
ウェルビーイング（well-being）	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。	
共生社会	さまざまな人々が、すべて分け隔てのなく暮らしていくことのできる社会。支える人と支えを受ける人に分かれることなくともに支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会。	
コミュニティスクール（学校運営協議会）	学校運営協議会を設置している学校のこと。学校と家庭・地域と一緒に子どもたちの成長を支え、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを持続的に推進していくことを目的としている。	
社会教育	学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み、持続的な地域コミュニティを支える基盤となるもの。	
社会教育士	社会教育士とは、令和2年度から始まった、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材の称号。	●●、コラム
社会的包摂	共生社会をめざす上で、社会参画に制約のある高齢者、障がい者、女性、外国人、貧困の状況にある子ども、孤独・孤立の状況にある者などを含め、誰一人として取り残すことのない社会。	
リカレント教育	リカレントとは、「繰り返す」「循環する」という意味。学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。	
リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること。	

用語解説・コラム等

社会教育士ってなに？

私たちのまち、暮らしには、さまざまな課題が山積しています。

たとえば、コミュニティの希薄化、空き店舗が増える商店街、子育てや介護が生む孤立、居場所や出番がない子ども・若者、災害から命を守る防災の備え、国籍の違いや障がいの有無などによる分断など・・・。

地域全体で、地域の抱える課題を解決し続けていくためには、

○地域の課題に対する当事者意識を持って、
○より多くの人々や活動が協働しながら、
○これまでの経験や学んだ成果を活かし、工夫しながら参加できる地域活動や市民活動を豊かにしていくことが求められています。

地域を面白くしたい、新たな人ともっと出会いたい、多様な人ともっとつながりながら活動したい、という前向きな気持ちになれるきっかけが、地域にたくさん存在していなければ、大人も子どもも、そして地域も成長していくことはできません。

このきっかけにあたる取組を、人々の自由で自発的な学習活動を支援する社会教育という分野では、「学び」と呼んでいます。

こうした「学び」を社会のいたるところにたくさん仕掛け、豊かな地域づくりへの展開を支援する専門人材が、社会教育士です。

今後、社会教育士は、社会教育施設や教育委員会事務局だけでなく、地域、社会、世界で解決が目指される多様な課題に取り組む地方公共団体の各部署や、NPO、企業、学校などの他、地域活動やボランティア活動などにおいても、活躍することが期待されています。



社会教育士

社会教育主事と何が違うの？

社会教育士は令和2年度から始まった制度ですが、もともと「社会教育主事」という、社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる専門的教育職員の制度があり、社会教育法に基づいて教育委員会に置くこととされています。

社会教育士制度は、この社会教育主事になるために修得すべき科目等を定めた社会教育主事講習等規程の一部改正によってできた制度です。

社会教育主事は、都道府県・市町村教育委員会から「社会教育主事」として、発令されなければ、その職務に就くことができません。

そのため、これまでもNPOや社会教育関係団体、企業、学校教職員、PTAなどの方々が講習や養成課程を受講し、様々な場で活躍していましたが、「社会教育主事」とは名乗ることができませんでした。

そこで、講習や養成課程における学習成果がさらに広く社会における教育活動に生かされるよう、定められた科目を修了した者は「社会教育士」と称することができるようになりました。



引用：文部科学省「【社会教育士ってなに？】社会教育士制度について」

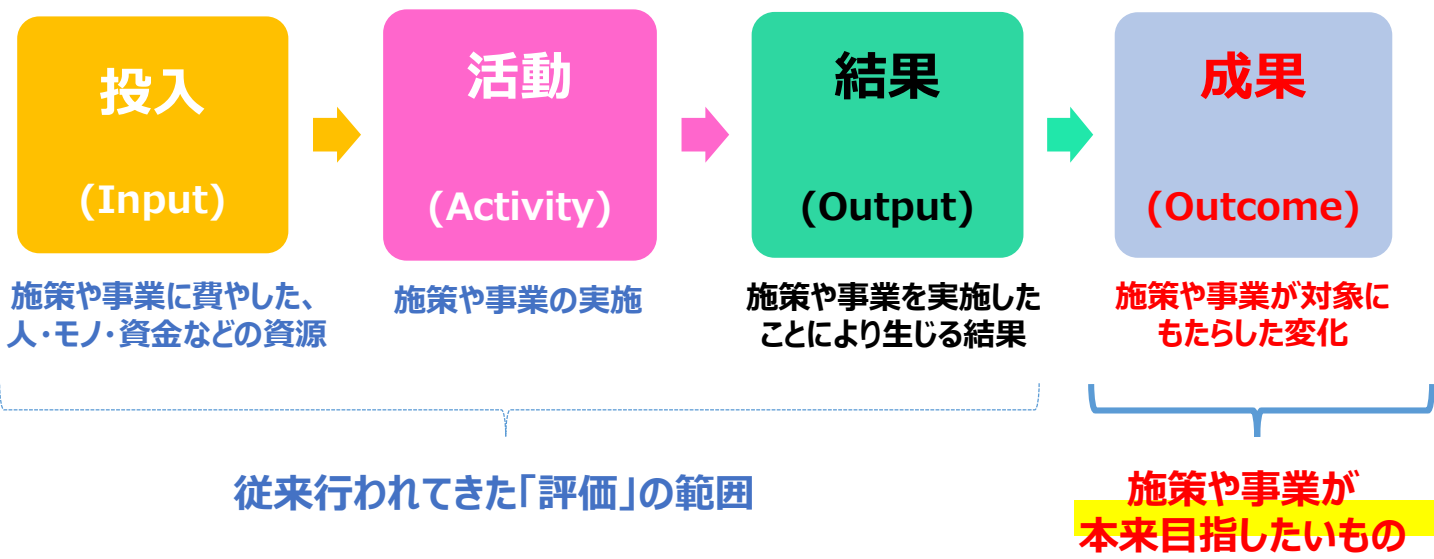
用語解説・コラム等

ロジックモデル（アウトプットとアウトカム）

ロジックモデルは、施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化したものです。原因と結果の因果関係の論理構造図で、「何のために、何をする」「何をすることで、何をもちたらかすか」を示しています。

- **アウトプット（Output）**：施策や事業を実施したことにより生じる結果（結果）
- **アウトカム(Outcome)**：施策や事業が対象にもたらした変化（成果）

< イメージ図 >



<社会教育事業の評価指標を作成するためのモデル指標例>

個別評価項目	アウトプット（活動・事業実績）	アウトカム（事業の直接的な効果・理解度）
A 知識・技術の習得	・ 講座修了者数 ・ 知識の習得にかけた時間数	・ 講座内容の理解度 ・ 受講者の学習の継続率
B 仲間づくり	・ 講座で知り合った人の数	・ 参加者の満足度 ・ 団体・グループへの加入率
C 地域課題の解決	・ 地域課題に気付くことにかけた時間数	・ 受講者の意識・行動の変容度 ・ 受講者の自主的な事業企画・実施度
D 学習の仕方の習得	・ 講座修了者数 ・ 学習相談件数	・ 講座内容の理解度 ・ 学習の継続率
E 普及・啓発	・ 資料の配付部数 ・ アクセス数	・ 地元紙等での報道数 ・ 住民の意識の変容度 ・ 資料の認知度
F 市民講師の発掘・養成	・ 養成講座修了者数	・ 講座等での指導回数 ・ 講師バンクの登録人数
G リーダー層の発掘・養成	・ 講座修了者数 ・ リーダー養成にかけた時間数	・ 講座等での指導・活動回数 ・ 参加者の満足度
H ボランティアの発掘・養成	・ 講座修了者数 ・ ボランティアについての情報提供数	・ ボランティアとしての活動回数 ・ ボランティアバンクの登録人数
I 団体の活性化	・ 活動参加者数	・ 活動参加の満足度
J 他機関・団体との連携	・ 連携団体数 ・ 連携者数	・ 新たに活動を開始した事業数

出典：「社会教育推進のPDCAサイクルを確立するために必要とされる評価指標の在り方に関する調査

用語解説・コラム等

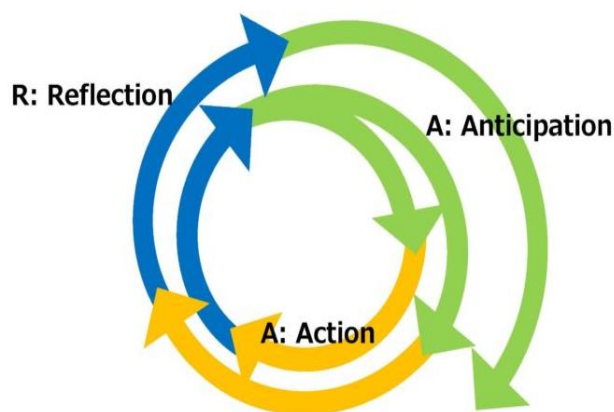
AARサイクル（P●●）とは？

AARサイクルは、ある程度の見通しが立ったら、まずはやってみて（挑戦し）、修正・改善を繰り返すことで学びの自己調整力を高め、少しずつ完成に近づけていく課題解決サイクルのことです。

見通し（Anticipation）、行動（Action）、振り返りReflection）の頭文字をとったもので、「OECD（経済協力開発機構）ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」においても、学びの中核的な基盤の一つとなっています。

Anticipationには、良き未来を構想し、わくわくしたりするという意味が込められています。良い未来を予期して、やってみて（Action）、振り返って（Reflection）、改善を繰り返したり新しいことを考えてやっていくというような、わくわくしながら次へ、次へという循環が駆動されていくとも言われています。

（AAR循環のイメージ）



© 一般財団法人 人生100年社会デザイン財団

なぜAARサイクルが必要なのか？

コロナ禍を経て、さらに予測困難で先行き不透明な激動の時代（VUCAの時代）とされる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問題にどう立ち向かうのかが問われています。

答えがない課題に立ち向かうには、まずは予測を立てて挑戦し、試行錯誤しながら、失敗も前向きに捉え、目標に向かって柔軟に修正・改善を繰り返すことが重要です。



© 朝日新聞社

PDCAとの違いや比較

PDCAサイクルは、主に組織やビジネスの過程などを対象として行い、何らかの前提に基づいて中期的な計画を立て、その通りに実行し、評価と改善を行うサイクルです。

計画の前提となる社会情勢の変化が激しく、計画を修正せざるを得ない状況が繰り返される環境下では、途中で柔軟に計画を修正することが難しい側面があります。

他方、AARサイクルは、主に学びの主役である個人を対象としており、激動の社会変化にも対応できるスピード感や、失敗にも寛容で挑戦を促す側面が強いです。

資料編

第3次 那覇市生涯学習推進計画

発行日： 20XX年〇月〇日
作成者： 那覇市
問合せ先： 生涯学習部 生涯学習課
住所： 900-8553 沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号 市庁舎10階
電話番号： 098-917-3502

